

[テーマ]

10人家族の家

[第37回] 日本工業大学建築設計競技

Nippon Institute of Technology Architectural Design Competition

[スケジュール]

2023年8月31日(木) 提出期限
 2023年9月中旬 ホームページ上にて発表 入賞発表
 2023年11月4日(土) 授賞式

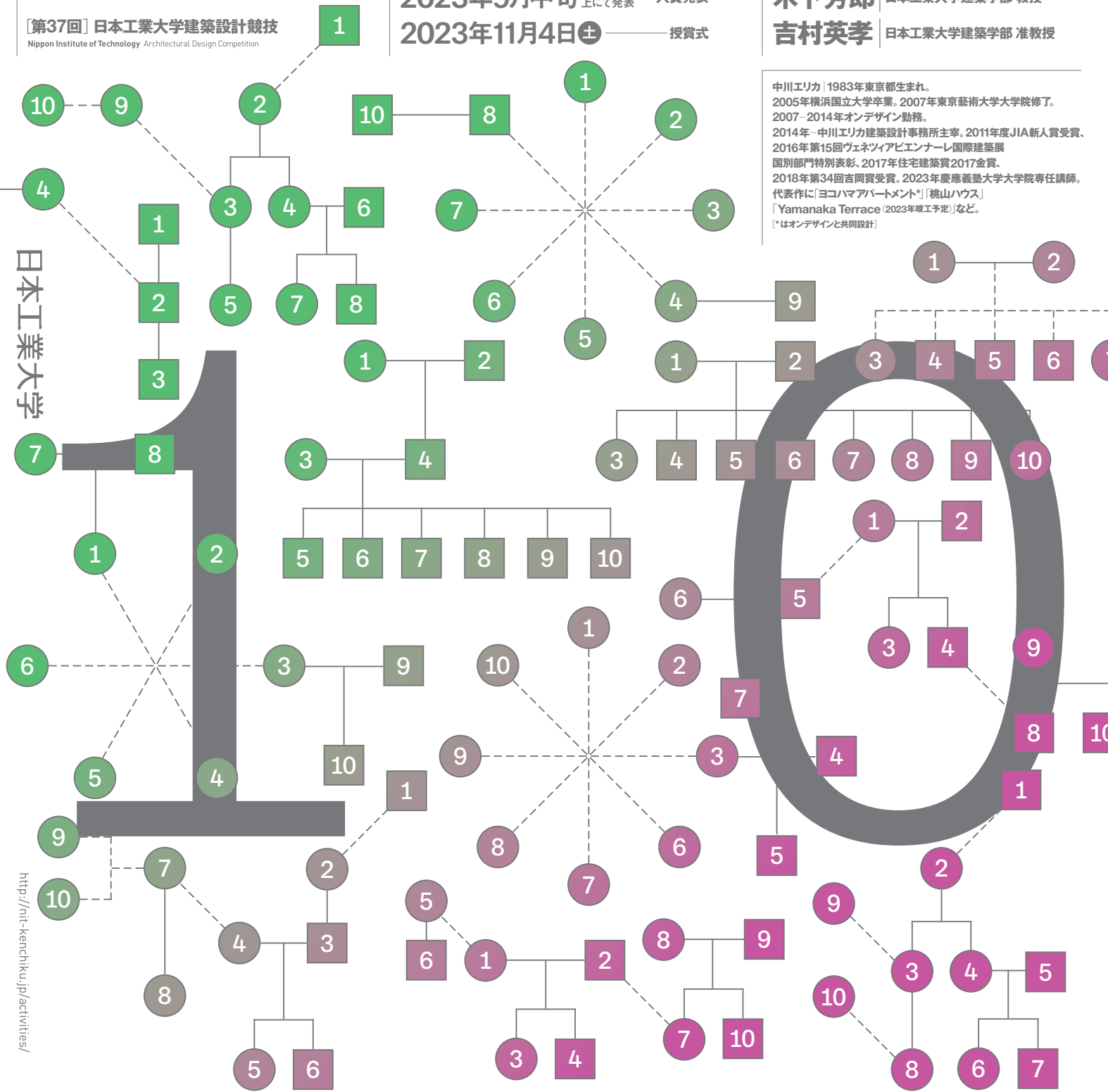
[審査委員]

中川エリカ | 中川エリカ建築設計事務所 主宰
 慶應義塾大学大学院 専任講師
木下芳郎 | 日本工業大学建築学部 教授
吉村英孝 | 日本工業大学建築学部 准教授

中川エリカ | 1983年東京都生まれ。
 2005年横浜国立大学卒業。2007年東京藝術大学大学院修了。
 2007-2014年オンデザイン勤務。
 2014年-中川エリカ建築設計事務所主宰。2011年度JIA新人賞受賞、
 2016年第15回ヴェネツィアビエンナーレ国際建築展
 国別部門特別表彰、2017年住宅建築賞2017金賞、
 2018年第34回吉岡賞受賞。2023年度慶應義塾大学大学院専任講師。
 代表作に「ヨコハマアパートメント」「桃山ハウス」
 「Yamanaka Terrace (2023年竣工予定)」など。
 (*はオンデザインと共同設計)

日本工業大学

http://nit-kenchiku.jp/activities/



本来、家は、そこに暮らす人々の考え方・生き方を下敷きにしなが
 ら、千差万別であるべきではないでしょうか。たとえ家族の人数
 が同じであっても、家族が違えば暮らし方は違はずだから、間
 取りも、家の形も、違って然るべきだと思います。しかし、nLDK
 という単語とともに、商品としての家が流通するようになって久し
 い昨今、多くの家は、みんな似ています。まるで、家族が3人であ
 ればこの間取り、おひとりさまならこの間取り、というように、半自
 動的に暮らし方を強制されてしまうかのようです。

そこで、今回の建築設計競技では、nLDKという単語が想定す
 る間取りには到底あてはめられない家族構成を前提とすること
 で、私たちがまだ知らない、けれども、そこに生きる人間の暮らし
 を応援する、唯一無二の家を設計して欲しいと思います。

家族=家に集まる人間の集団=あるテーマを共有したコミュニ
 ティ、として再定義することから、新しい家のかたち、使われ方を
 提案してください。

- 1 家族の人数は10人とします。家族の構成は、自由に設定
 してください。10人の家族は、通常の血縁関係の家族を
 想定し、父母+8人兄弟の核家族でも構わないし、祖父
 母+父母+6人兄弟でも構いません。もしくは、血縁関係
 に縛られず、祖母+介護士+(父母①+2人の子供)+(母②
 +1人の子供)+母②の会社の社員2名、というように、多様
 な家族構成を設定しても構いません(この場合、例え、母①と
 母②が姉妹で、母②は自分でカフェを営むシングルマザー、母②の
 会社=カフェのスタッフは仕事場として日中のほとんどをこの家で暮らし、
 仮眠するための場所も確保されている、というイメージです)。現実的な
 設定でも、特殊な設定でも構いませんが、若い世代の皆
 さんが、「どういうまとまりを家族だと思うのか」、ぜひ積極
 的に提案してください。
- 2 家の広さは自由です。ここでいう広さとは、「建物の広さ」と
 いうことでもあり、「どの範囲を家と呼ぶか」ということも含み
 ます(例えば、漁師さんは自分の家という建物を越えて、港の作業場も海

- 辺全体も家のようなものとして捉えているかもしれません)。家族構成
 から読み取れる(想像できる)、もしくは、しっかり再定義して明
 言する、いずれかを提案書に盛り込むことが望ましいです。
- 3 必要に応じて、普通の家にはない機能を含んでも構いま
 せん。かつての家では、仕事(生業)の関係者が出入りしたり、
 医者が出入りしたり、出産や冠婚葬祭が行われたり、寝
 食以外の、人間が生きてと自然と巻き起こる実に多様な活
 動が受け止められ、多様な人々が入り出していました。つま
 り、家とは、単体で完結する存在ではなく、同じ行動の繰り
 返しに留まるのではなく、そもそも柔軟に開かれていたのだ
 と言えます。10人という、通常よりも多い人数が暮らす家
 では、そもそも出入りする人間が多く、また、訪れる友人や知人、
 届く宅配物など、家族と関係する人・物・情報の量も、通常
 よりも多いことが想像されます。10人という人数を、家を開
 きやすくするヒントと捉え、本来、家とはどのような場所であ
 るべきか、設計を通じて提案してください。

[設計条件]

- 「10人家族の家」として工夫した点を具体的に示すこと。
- 設計する住宅の周囲の状況がわかるように表現すること。
- どのような人が、どのように使うのか、わかるように表現すること。
- 作品は、この課題のためにつくられたオリジナルのものであること。

[提出図面]

- A1 版用紙1枚(841mm×594mm縦使い)にレイアウトする。
コピー、CADの使用などは自由。
- 配置図:1/100 敷地周辺との関係を表現すること。
ただし、1階平面図と兼用する場合は1/50とする。
- 各階平面図:1/50 1面以上とする。敷地内の外部空間も設計すること。
- 断面図、立面図:1/50または1/100 それぞれ1面以上とする。
- 透視図または模型写真を少なくとも1点入れること。
- 提案に応じて図面の縮尺を変えてもよい。
- 図面はパネル化不可とする。

[応募要領]

- 応募資格:原則として応募時に高等学校の建築科、またはこれに準ずる学科に在籍しているもの。
共同作品の場合は、3名までのグループとする。
また、同一人の応募は、2作品までとする。
- 質疑応答:応募要項にないものは、すべて応募者の判断によるものとし、質疑応答は行わない。
- 提出期限:2023年8月31日
提出はすべて郵送とし、当日の消印のあるものまでを有効とする。
- 提出先:
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学 入試課
電話番号:0480-33-7676
- 提出方法:同一人が複数応募する場合および同一学校から複数提出する場合は、応募作品をまとめて郵送する。
郵送物のわかりやすい箇所に「設計競技応募作品在中」と朱書きする。
- 応募用紙:提出図面には、応募者の所属学校名、氏名等は一切記入してはならない。
応募用紙をコピーの上、氏名等を記入し、応募作品ごとに提出図面の裏面に貼る。

[応募作品の受取]

- 指導教員に対して応募作品の受取確認をメールまたはFAXで行う。
- 受取確認は提出期限後、1週間程度以内に行う。

[審査]

- 審査委員:
中川エリカ[中川エリカ建築設計事務所 主宰/慶應義塾大学大学院 専任講師]
木下芳郎[日本工業大学建築学部 教授]
吉村英孝[日本工業大学建築学部 准教授]
- 入賞発表:2023年9月中旬ホームページ上にて発表。
- 授賞式:
2023年11月4日、本学において行う。
出席する入賞者および指導教員の交通費は、本学で負担する。
当日は、審査委員のスライド・レクチャーと講評が行われる。
- 作品展示:入賞作品は、授賞式の際に本学LCセンターにて展示する。

[賞について]

- 下記に対して、賞状及び賞品を贈呈する。
- 一等—1点/賞品:図書券(10万円相当)/副賞:10万円
 - 二等—1点/賞品:図書券(5万円相当)/副賞:5万円
 - 三等—1点/賞品:図書券(3万円相当)/副賞:3万円
 - 佳作—10点前後/賞品:図書券(1万円相当)
- 副賞は、応募者の在籍する学校に指導費・研究費として贈られる。
 - 応募者全員に入賞作品集が贈られる。

[図面の返却]

- 応募作品は入賞作品を除き、提出図面のみを発表後2ヶ月以内に返却する。
- 入賞作品は返却しないので、必要に応じてあらかじめコピーをとっておくこと。
また、梱包用の筒等は返却しない。

[出版・展示]

- 入賞作品の公開(展示・出版)は、本学の判断で行う。
- 入賞作品は、印刷物として刊行する。

[ホームページアドレス/メールアドレス]

HP=<http://nit-kenchiku.jp/activities/>(過去の入賞作品が掲載されています)
E-mail=kenchiku-compe@nit.ac.jp

裏のりしろ
(応募用紙を貼る際、この枠の裏側をのりしろにして下さい)

[第37回]

日本工業大学 建築設計競技 応募用紙

課題「10人家族の家」

- 応募作品ごとに、この用紙をコピーして使用し、のりやテープ等で図面の裏面に貼る。
- 共同作品の場合には、
 - 〇欄に代表者名を記入すること。
- 応募用紙には、楷書で記入すること。
- 応募用紙と図面の作品タイトルに食い違いがある場合、図面を優先します。

整理番号
(記入する必要なし)

作品タイトル			
高等学校名 [正式名]	高等学校		
学校住所	〒	—	都 道 府 県
	電話番号	—	—
	FAX	—	—
指導教員名	メールアドレス		
生徒氏名 学科・学年	フリガナ		科 年
	○		
	フリガナ		科 年
	フリガナ		科 年